景観形成基準チェックシート（建築物の建築等・外観の変更）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目 | 景観形成基準 | 措置又は配慮の内容 | ※適否 |
| 配置 | □敷地における建築物の位置は、街なみの連続性や一体性に配慮し、壁面や軒先、塀・垣・柵等の位置を揃えるなど、周辺建築物との調和に努める。 |  |  |
| 高さ・規模 | □高さや規模は、できる限り周辺の街なみから突出しないよう配慮する。 |  |  |
| □高さや規模が周辺の街なみから突出する建築物は、形態や色彩、素材等で壁面の分節化を図るなど、周辺とのスケール感の調和に努める。 |  |  |
| □歴史的建築物など優れた景観資源を有する伝統的な街なみが形成されている場合は、その景観を阻害しないよう、高さや規模が目立たないよう工夫する。 |  |  |
| 形態・意匠 | □街なみの連続性や周辺景観との一体性に配慮し、奇抜な形態、意匠は避ける。 |  |  |
| □地域が有する共通の景観的特徴を活かした意匠に努める。 |  |  |
| □長大な壁面は、無窓など単調なものは避け、形態や意匠を工夫し、歩行者等に圧迫感を与えないよう努める。 |  |  |
| □屋根の向きや形状に統一感がある場合は、周辺建築物と形態を揃えるなど、街なみの調和に努める。 |  |  |
| 色彩 | □基調となる色は、彩度を抑え落ち着いたものとするよう努める。 |  |  |
| □基調色に明度の低い（暗い）色彩を用いる場合は、明度の高い（明るい）強調色を組み合わせるなど、重すぎる景観とならないよう努める。 |  |  |
| □複数の色彩を使用する場合、及び部分的に強調色を用いる場合は、他の色彩や基調色との色相・明度・彩度のコントラストが大きくならないよう努める。 |  |  |
| □木材や石材などの自然素材を使用する場合は、伝統的意匠の継承等を除き、素材本来の色彩を用いるよう努める。 |  |  |
| □屋根の色は、周辺で使用される色彩と著しく異なるものは避け、彩度を抑えた落ち着いた色調に努める。 |  |  |
| 素材 | □地域性のある素材の使用に努める。 |  |  |
| □耐久性や美観の持続性に配慮した素材の活用に努める。 |  |  |
| □反射光のある素材を使用する場合は、反射性の低い無彩色のものとするなど、周辺からの見え方に配慮する。 |  |  |
| 設備・附帯施設等 | □ベランダや屋外階段等は、建築物本体と調和した形態意匠に努める。 |  |  |
| □外壁や屋根上、屋上等に設ける設備は、できる限り通りから目立たないよう工夫に努める。 |  |  |
| 外構・緑化 | □街なみの連続性や一体性に向け、敷地内には適度な緑の確保に努める。 |  |  |
| 門扉、塀・垣・柵 | □位置、形態※、デザイン及び素材は、建築物本体と親和性の高いものとし、周辺の街なみとの調和に努める。　※土塀、石垣、生垣など |  |  |

備考

１　該当又は適用する景観形成基準の内容の□に✓を入れてください。また、該当しない又は適用されない欄はその旨を記入してください。

２　「措置又は配慮の内容」については、できる限り具体的に記述してください。

３　※適否欄は記入しないでください。